UD新聞

1年2組
松浦真央

バリアフリーとユニバーサルデザインの違い

〈思想的な違い〉

ユニバーサルデザインは障害者だったロナルト・メイス氏がバリアフリー対応設備の「障害者だけの特別扱い」に嫌気がさし、日頃から多くの方に使いやすいものを作る設計手法として発明されました。

バリアフリーは障害者・高齢者などの生活弱者のために、生活に障害となる物理的な障壁の削除を行うという、過去の反省に立った考え方で進化してきました。

〈例〉

・建物玄関前の段差

玄関前にある段差にスロープを付ける

バリアフリー

設計時点からスロープを計画し作りあげる

ユニバーサルデザイン

完成したのは全く同じ形状

バリアフリーとユニバーサルデザインの混合しやすい理由かも

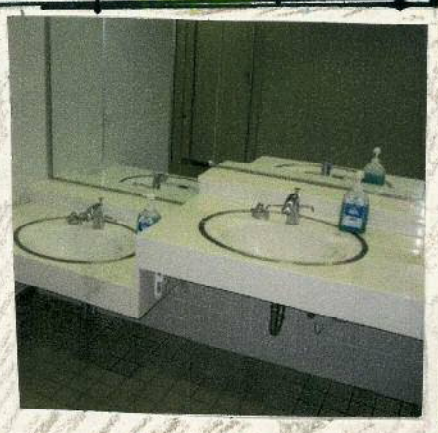
心のユニバーサルデザイン・心のバリアフリー

バリアフリーユニバーサルデザインの思想は、心のやさしさ思いやり凸です。

この共通する精神は、「すべての人を個人として尊重し、思いやりの心を持って助け合う能力度を育て、共に生きる人間の心の育成を目指す」福祉のこころの育成に通じている。

	種類	思想・発想	普及スタイル	対象者
ハード整備	ユニバーサルデザイン	多くの形に使いやすいデザイン手法	良いものをほめたたえ推奨する[民間主導型]	すべての人
	バリアフリー	高齢者や障害者の使いやすい町に変化	施設の計画に規制する事で普及[行政指導型]	高齢者障害者
ソフト整備	心のユニバーサルデザイン心のバリアフリー	心のやさしさや思いやり	所発教育	すべての人

身近なユニバーサルデザイン



中央キーが、凸状に盛り上がっている。

切り欠きの付いている反対側が空け口。

中心の「F,は」「J,ま」は凸状に盛り上がっている。

シャンプーの容器の側面にギザギザ。

自動ドア代表的なユニバーサルデザイン。

片手で開閉できる。ふたがどこかにいかない。

身長が違っても握りやすいドアハンドル

ビールなどの酒類に点字が打たれている。

まとめ

ユニバーサルデザインは「すべての人のため」で、バリアフリーは「障害者、高齢者のため」であることがわかった。身近には、普段私達が使っているユニバーサルデザインがたくさんあった。